

第4章

教員仲間に伝えたいこと，勧めたいこと

「ティーチングスキルアップアンケート」のⅡ部の自由記述欄「授業に関して、技術面・個人的体験など、教員仲間に伝えたいこと、勧めたいこと」に対する回答を性別、専門分野別に分類し、受領した順に、原文のまま掲載します。

■ グループ I : 女性・理系

1. 女性・理系・1年（講義経験年数）
講義資料をテキストと連携させたものにしないと学生が困惑している。
2. 女性・理系・2年
心構え。
3. 女性・理系・2年
経験を重ねることでより授業の内容も魅力的な物になるだろうと思う。学生の反応がいいところをチェックして次回にいかせれるよう改善している。
4. 女性・理系・5年
内容が多いので、なるべくレジユメを作成し、講義開始時に配布している。声は大きく、重要なポイントに絞って、解説するようにしている。
5. 女性・理系・6年
学生として神戸大学の教員の授業を受けた経験があるので、一方通行にならないように、学生とコミュニケーションを取りながら授業を進めている。
6. 女性・理系・6年
 - ・ピアレビューで他の先生方の講義を拝見すると、パワーポイント資料が文字のみの場合（数学などの特別な例を除く）がかなりあり、自然科学系の情報伝達として、それで良いのかと疑問を持つことがある。
 - ・1～2年生は講義に受け身であることが多く（高校の延長）、積極的に質問しようとしな。こちらから質問するようにしているが、返答せずに黙ってしまったり、テストに記述式の問題を出すと正答率が低い傾向があり、考えながら受講していない学生への教育方法が悩みである。
7. 女性・理系・7年
講義資料。
8. 女性・理系・9年
大人数の学生を対象とした講義は、学生との双方向性を作るのが難しい。
9. 女性・理系・10年
レジユメを配布するようにしています。
10. 女性・理系・10年
受講者数にもよりますが、できるだけ参加型になるように心がけて準備すると、学生たちの反応は良いように思います。講義資料やパワーポイント、レジユメ等は見やすさを優先して（字体、大きさ、色味等）作成しています。
11. 女性・理系・10年
最近講義はパワーポイントで見やすくする方がよいとされますが、様々な理論などを説明する場合には、学生にスマホで写真を撮らせるのではなく、板書をして数式の

意味を理解してほしいので、数式が書かれていない講義ノートを学生に提供して、学生が少しでも手を動かして理解するようにしています。

12. 女性・理系・13年

自分で勉強すること、向上心を忘れないこと、そして学外の授業が上手な教員やメディア関連の方・講演が上手な講師の方などから常にスキルや姿勢を学ぶことが大事だと思います。私は、自分が学生が人前で話したり、カウンセリングをするためのスキルを教えている立場なので、とくに自分自身の技術や人間性などを常に磨くよう心掛けています。

13. 女性・理系・15年

ゆっくり話す。一回の授業内容の適正な量。

14. 女性・理系・15年

英語での授業を求められるようになってきます。

アメリカの大学コースで1週間くらい、授業のスキルアップをするようなセミナーがあると思うのですが、そういうのに参加できるようなチャンスがあればありがたいです。

15. 女性・理系・18年

講義時間の10倍、準備に時間をかけるというのを聞いて、実践するようになってから、学生アンケートの点が高くなりました。

16. 女性・理系・20年

声の大きさ。話し言葉に親しみを感ずるように努力する。私語をできるだけなくすように努める。引き込む授業を心がける。

17. 女性・理系・20年

シラバスに沿って行うことは心がけている。パワーポイントを用いながらの授業が多いが、学生が受け身になりがちなので、()書きなどを入れて、書き込ませるようなこともさせている。ただ、e-learningの手法を用いるなどのことがなかなかできず、また振り返りのさせ方などについても勉強できればと思っている。

グループⅡ：女性・文系

18. 女性・文系・1年

まだ1年しか授業を担当しておりませんので、教員仲間へ勧められるような内容がありません。自分の授業のスキルには不安を感じており、経験豊富な教員からアドバイスが受けられる機会があればいいなと思っています。

19. 女性・文系・3年

- ・情報や知識を正確に伝えることと同じぐらい、学生が主題について自発的に興味を持つきっかけとなる講義を心がけている。
- ・学生それぞれに得意なアプローチが異なると考え、映像資料の読解、ディスカッション

- ョン、ミニエッセイなど一連の講義のなかで数種の取り組みを行っている。
- ・出席管理をしなくてすむことが理想（教員心理的にも）。
 - ・授業直後の手応えを（良かったにしろ悪かったにしろ）信用し過ぎないようにしている。

20. 女性・その他・4年

上位教員の先生方の授業に入らせて頂いて、臨床の事例に基づいている方が学生が関心をもってきているようにみえ、また後日学生達から事例とともに話された事柄は一生忘れないという話をきき、自分自身もそのようにしたいと思った。

21. 女性・文系・10年

まだまだ、大学は男性社会だと思う。密室化しているため、表面化しないセクハラやパワハラが実際にはあるし、体験している。

22. 女性・文系・11年

講義では1コマに入れる情報量が多すぎ、話し言葉の1文も長すぎると自覚しているのですが、減らすこと、短くすることが難しいです。コツがあれば教えていただきたい思います。パワポを使いますが、スクリーンを使うと状況に合わせて書き足すための板書が見にくくなるので、改善策がないか探しています。

23. 女性・文系・12年

講義は試行錯誤で、同じ科目の講義でも、毎年異なる方法を試しています。

24. 女性・文系・13年

技術が進歩するにつれて、（自分自身が大学生の時と比べて）学生のライフスタイル、人生観、大学観も大きく変化しています。「自分が大学で習った・学んだスタイルを用いて、学生を教えない。過去の自分を今の学生が超えていけるように指導する」ことが大切だと思います。

25. 女性・文系・16年

毎年、新しい内容を盛り込む、伝え方を考えるなど、学生の意欲の芽が育つよう、授業を再考しています。教える内容の質をよくしようという情熱が大切だと思います。

26. 女性・文系・25年

私語については、講義の始めて静かになるまで講義を始めないようにしている。また、それでも講義中におしゃべりする学生はレポートを提出、あるいは返却時に名前を覚え、名指しで静かにするように注意している。

27. 女性・文系・30年

他の教室で遅く始まったり早く終わって廊下などがうるさくなると、学生もそわそわしますが、最後までその日の課題を終えるまでしっかり集中させる工夫をする。

28. 女性・文系・30年

配布資料を前もってBEEFにアップしていますが、1限の講義で先着30名に印刷したものを配布すると、遅刻者がいなくて気持ちよく講義できています。

29. 女性・文系・30年

教師が教えたつものことと学生が学ぶことは違うということを常に意識して、どうやったら学べるかを考え、理解のレベルを時々チェックする。資料は多すぎても少なすぎても効果がないので、渡す量とタイミングを考える。学生の多様性を意識し、人によって学び方が違うので、多様な学習スタイルに合うように、教え方も多様なやり方を使う。声の大きさ、スピード、学生一人一人への視線、などを意識する。

30. 女性・文系・30年

少なくとも授業開始時間の10分くらい前に講義室に行って、マイク、プロジェクター、パソコンなどのセットをします。授業がはじまってからパソコンがうまく動かなかったり、マイクの調子が悪かったりしてあわてたことが何度もあるためです。

 **グループⅢ：女性・その他****31. 女性・その他・2年**

講義の経験が浅いため、他の先生方の授業構成や展開の仕方から学ぶことが多々あります。

32. 女性・その他・4年

現在、有志で集まり、インストラクショナルデザインの勉強会を開催しています。より良い講義の提供を目指して、教員間で情報共有、ディスカッションができるなどと思います。

33. 女性・その他・5年

現在、学内中心に授業についての勉強会をしており、ここで他の教員から意見をもらったり、教育方法を見たり聞いたりすることを通じて自己研鑽しています。これはとてもありがたく貴重な時間になっています。

34. 女性・その他・20年

講義を受けている学生の反応や学生からのフィードバックを受けて、適宜授業内容や方法を修正・追加等している。

35. 女性・その他・28年

入試で優秀な高校生に入学してもらい、大学生として優秀な成績で卒業してもらい、社会で活躍してほしいと願っております。

 **グループⅣ：男性・理系****36. 男性・理系・1年**

アクティブラーニングを心掛けています。

37. 男性・理系・3年

普通の座学の授業はMOOCsで将来置き換わってしまい、学生がわざわざ大学に来る必要がなくなる時代が近いと感じる。実習のような学生自身が何かに取り組む授業を

増やしていくべき。現状の教員数では難しいが、教員数が増えれば、そのような対策も可能だと思う。

38. 男性・理系・5年

理解度は発言しない学生ほど低い傾向にあるので積極的に個別に話しかけるようにしている。(少数の場合)

39. 男性・理系・6年

パワーポイントで映写した資料全てを欲しがる学生が増えていると思います。講義内容を聞き取ってメモ(あるいはノート)をとる習慣が乏しくなっていると思います。

大人数(受講登録者数が180人程度)ですと、学生の主体的な参加を促すことが難しいです。

学生間の討論・議論を伴う講義では、授業の際の座席を毎回入室時のくじ引きで決めるというアイデアを、他大学の教養系科目の担当教員に聞いたことがあります。発言する人と発言しない人が偏ることを防ぐ効果があるようです。

40. 男性・理系・6年

昨今、小学校からタブレット端末や電子黒板等を使用した授業が導入されつつあり、このような教育を受けた学生が、今後、大学に進学してくる際に、どのように大学の講義で対応すればよいか悩んでいる。

41. 男性・理系・6年

私の場合、約30年の実務経験を経て大学教員になった、という背景があるのですが、大学で学んでいることが実社会で役立つ具体的な場面や事例をできるだけ紹介するように心がけています。

42. 男性・理系・7年

以前はパワーポイントなどの資料を教室のスクリーンへ投影して、その説明をしながら、授業を進行していました。最近では、ホワイトボードいっぱいに板書をしながら、説明をして、そして、補足内容もまた板書しています。何が良いのか、模索しつつ、答えは一意にならない事を想像しながら、授業をしています。

43. 男性・理系・8年

教員の努力ではなく学生の努力を最大限に引き出すことを念頭に置いています。教員が入念に準備して流れるように講義をしても右から左に抜けていきます。学生自身に調べさせ、お互いに評価させるような方法を履修人数に合わせて設計することです。

44. 男性・理系・10年

授業の基本や学生との接し方がわかっていない教員が見受けられます。教育学部の教員に学内研修を行っていただきたいです。

45. 男性・理系・10年

講義は、聴講する学生の立場で、知らないことを前提に作成し、自分が聴きたいレク

チャーにすることが重要かと思います。出席率が悪かったりしても自分に責任があると思いつながら構成を考えています。

46. 男性・理系・10年

板書なし、すべてパワーポイントです。毎年修正しながら改善に努めています。全くとらないもの、ノートのみに夢中になるものなど、学生のノートする力の違いが大きいのが悩みです。

47. 男性・理系・10年

講義中の学生の携帯電話使用について。

48. 男性・理系・10年

学生のニーズにあった講義ができているか、常に気にしている。

49. 男性・理系・10年

年度により学生の質が変わるため、私は講義ノートを作成せず、具体例を挙げながら授業を行うことで学生の理解度を一定に保つことが出来ている。

50. 男性・理系・10年

医学研究科の教員ですが、これまで講義について全く教育を受けたことがありません。自己流で講義をしています。このようなものが教員として講義を行うことに疑問を感じていますが、今のところクレームがないので続けています。教員になる際にFDが行われるべきだと思いますし、教育（FDなど）を受けたことによるインセンティブがあるべきだと思います。

51. 男性・理系・10年

まじめに授業をして欲しい。

52. 男性・理系・12年

- (1) 学生が講義を受ける「環境」を良くするように心がけている。音声面では、自分の声が学生に届くように配慮するだけでなく、学生の私語を徹底的に注意することも重要であると思う。私語を排除することで、学生の受講環境は格段に良くなる。その他、部屋が暑すぎず、寒すぎないようにすること、換気扇を忘れずに運転することも、勉強しやすい環境を提供することにつながる。窓やカーテンの開閉も、学生に手伝ってもらいながら、状況に応じて、適切な状態にするように心がけている。
- (2) 当たり前のことかもしれないが、「時間」を正確に守るように留意している。自分が毎回必ず時間通りに授業を開始・終了することで、まじめに勉強しようとしている学生の時間の無駄が省かれる。また、遅刻・早退する学生の自業自得が明確になる。時間が曖昧では、授業管理は、ままならない。
- (3) 環境や時間の管理をしっかりと行うことで、勉学に対して意欲的な学生にとって有益なことが、数多く生まれると考えている。

53. 男性・理系・13年

ゆとり教育を脱した学生に変わったこと = 生物（と化学）の既習内容が大幅に増えている、を正しく把握すべきことに気づいていない教員が多いのではないだろうか。分子生物学、細胞生物学などB1,2対象の生物系基礎科目は従来然の内容では高校生物履修者にとってかなりの部分が復習となる（少なくとも基礎的概念やしくみは既習）。一方で、高校生物履修者と未履修者（=生物基礎のみ履修）の既習度の違いによる理解力の差を当初は心配した。そこで毎回の講義で理解度と既習度を調査、試験結果も分析したが、開講時に未履修者へ高校参考書を紹介し生協書店に並べてもらった程度で別途補習などの対応までは必要なかった。つまり、毎回の既習度には両者で明らかな開きがあったが、期末試験の最上位者の半数は生物未履修者であったし、平均得点率の差も5%程度であった。考察するに、理系学生はほとんどが高校化学を履修しており、これも大幅に学習内容が増えたことで理科全般に対する学習センスや科学的思考法の基礎力が向上し、未習分野にも取り組みやすいのかもしれない。このことをきちんと理解し、うまく講義内容を高度化、深化できれば

54. 男性・理系・13年

講義は教員のライブ・コンサート。ライブに来てくれた聴衆（学生さん）が求めていることを提供（講義）する。お客さんを講義に参加させて楽しませ、自分も楽しむ。これに尽きます。学生さんが100%楽しんでくれるためには、自分が200%楽しまない。ワイヤレスマイクを持って、客席を縦横無尽に駆け巡ると良いでしょう。

55. 男性・理系・14年

遅刻や授業中の居眠りなどされると頭に來ますし、やる気もなくなりますが、そういう学生が目立って見えてしまうだけで、そうでない学生が意外と楽しみにしてくれているのは知っておくべきだと思います。楽しみにしてくれる学生のために準備をするのは前向きになれますし、自身にとってもよい経験の積み上げになります。他のことが多く教育が軽視されがちな社会なのかもしれませんが、そこを少しがんばって工夫をしていくことを忘れなければ、未来を背負ってくれる彼ら彼女らは将来きっと応えてくれると思います。悩んでいる若い先生には、今こそ教育が大切な仕事であることを誇りに思ってもらいたいです。

56. 男性・理系・14年

板書を基本にします。画像を使うときはパワーポイントを使用します。

講義資料は、やや詳しい目のものを用意します。意欲のある学生だけでも読んでくれたらいいと思います。

授業中の私語は、授業のじゃまになったら注意します。

最近スマホ等で友人とやりとりしているようで、私語は減っていると思います。ス

マホ等を使っていることは気になりますが放置しています。

出席はとりません。時間ももったいないです。

宿題は、次回の授業の始めに解説をして自己採点させ、回収します。その時点が閉めきりです。授業中は新しい内容を聞いてほしいですから、授業中に宿題をやって終わってから提出されたものは大幅に減点します。

57. 男性・理系・15年

講義をきっかけとして、啓発されて自学自習へ進んでいくことが理想的であると考えています。

58. 男性・理系・15年

学生の心に響く講義をしたいと願っているが、なかなか難しい。根源的な疑問、問いをぶつけて、講義内容がそこへのアプローチとして感じられるように心がけている。

59. 男性・理系・15年

大学の講義は型にはめて必要事項を詰め込めばよいというわけではなく、学生に探求心を芽生えさせ、自己学習を活発にさせることが重要と考えます。最近では、パワーポイントで講義をする人も多く、講義資料も昔に比べると格段に整理されているとは思いますが、それが逆に、学生の探求心をそぎ、それだけを勉強していればよいと単位取得だけを目指した学生を増やしているのではないかと危惧しています。

60. 男性・理系・17年

講義資料として、穴埋め式の講義ノートを配布（生協で実費購入）して、講義内容でどこがポイントかがわかるように講義しています。また、宿題をほぼ毎回だし、提出された問題形式のレポートは、できるだけチェックして返却するようにしています。

61. 男性・理系・20年

およそ200名の学生を対象とする授業の場合、学生のレベルがまちまちであるので、どの学生のレベルに合わせて授業を進めるか、悩ましい問題となっている。

62. 男性・理系・20年

心を込める。言葉をはっきり明瞭に発音する。

 **グループV：男性文系**

63. 男性・文系・20年

教える技術というもの、経験を積んでもそう簡単に向上するものではないと感じます。

64. 男性・理系・20年

伝えたい事ではなく、訪ねたいことです。

受講生は様々ですが、「受講生の”考え”、”思考”をいかに言葉にして引き出すか？」のいい方法を教えてほしい。

65. 男性・理系・20年

学生に実物を見せる。

66. 男性・理系・20年

凄く良い、学生のためになる授業をしても、逆に最低限のいい加減な授業をしても、評価は同じ。授業数の多さだけが評価される？ような仕組みで、誰が熱心に授業を考えるのでしょうか？

67. 男性・理系・20年

私自身は男性ですが、女性の非常勤講師の方と共同で授業を数年間行った経験があります。教壇に立っている先生が女性であるというだけで、私語をしたりする学生が多い傾向があるかもしれませんが、厳しく注意するなど、毅然とした態度で臨むことで、かなり解消できるように思われます。

68. 男性・理系・20年

行灯(ランプシェード)など、できるだけ実物を使って現象を説明できるよう心掛けている。

69. 男性・理系・21年

聴講する学生数が少なければ大丈夫ですが、40名を超えるとコントロールが出来ない印象を持っています。こちらの目が届かなくなります。何か工夫しておられる事があれば知りたいです。

70. 男性・理系・22年

演習等を積極的に取り入れ、講義時間を有効に使うようにしている。
理論・方法論・手順等の背景・狙いを補足説明するようにしている。

71. 男性・理系・23年

昨今大学が専門学校化してきて授業評価や他の視線を気にすることが多くなった。それ自体は必要なことと思うが、過剰に反応しすぎていると感じる。大学の教育は単なる知識や技術の伝達ではなく、人としての生き方を深めることに意義があると考えており、教員の生き方や講義姿勢を見て(いわゆる後ろ姿を見て)感じ取ってもらうことが重要との信念でやってきた。

最近の学生は出席率が良くておとなしくて時代の表面的な評価に流されている感が強い。自身がそのような時代の流れにそぐわない古い存在になりつつあることを実感しているが、教員の個性がもっと発揮できる大学本来の姿を期待したい。

72. 男性・理系・23年

授業の工夫はさまざまでしょう。だけど、死んだ魚のような学生の目が輝くときがあります。そのとき、授業内容が彼ら彼女らの琴線に触れてストンと中に入ったことを感じます。今日はいまうまくいなくても、問題意識を持って工夫を続ければ、そんなご褒美も増えてきます。お互い頑張りましょう。

73. 男性・理系・25年

準備や服装

74. 男性・理系・25年

自分の授業がどの程度学生に理解されているか把握することが難しい。

学生の受講態度をどの程度注意すべきか迷う。

学生の服装に関して、男女とも実習に適していない服装を注意する点はどのラインが常識か迷う。

75. 男性・理系・25年

講義ノートは丁寧に作成しました。それを使って講義をしますが、講義の間に気をつくこともあります。TAの学生には、それを記録してもらうようにしました。そうして出来上がった講義ノートをもとに、先日、教科書を出版しました。

76. 男性・理系・25年

最近の教育のあり方については、学生に対するアンケートなどから、わかりやすく、やさしく、しかも興味が湧く授業や演習が求められる傾向があるが、学生のわがままのように思える。それはそれとして講義のレベル維持や、学生の学力向上のためには厳しさや、理解の困難さも厭う必要はないと思う。そもそも勉強していない学生、そのための学力不足学生が多いと感じる。

77. 男性・理系・26年

講義はできるだけプレゼンソフトで行ない、そのファイルはいつでも見れるようにしておく。しかし、準備はたいへんである。出席はとらない。やる気が無いのに出席点だけ欲しいような学生を排除するため。試験は問題をあらかじめ公表し、本番は数字などを変えるだけ。レポートは丸写しが横行するので、行なわない。

78. 男性・理系・27年

助教のため、講義を担当したことはございません。従って、上記は、分担している実験に関することとして記入致しました。講義云々などに関しまして、おこがましくて、僕などには語る事など全くございません。

79. 男性・理系・27年

「私語摘発1回につき、試験の得点から10点の減点」と第1回目の講義で宣言します。効果絶大です。

80. 男性・理系・28年

大人数の授業（例えば150人程度）での授業の工夫について知りたい。

81. 男性・理系・30年

- ・受講生諸君の授業内容への興味をいかに引き出すかが極めて重要。
(学生諸君の大学志望理由が必ずしも専門分野への興味とは限らず、偏差値や先生・の意見による場合も多いので、後付けでもよいので興味を引き出す必要がある)
- ・そのために、授業内容に関連するネット情報、テレビ番組等の参考情報について、積極的に提供している。
- ・特に技術開発における苦労話や、いかにしてヒット製品が生まれたか、ステー

ブ・ジョブズの足跡など、学生諸君が興味をもつビデオを授業時間外に放映して、興味をもつ学生には感想レポートの提出を求めている。

・ティーチングスキルについては、「成長するティップス先生」が参考になる。

82. 男性・文系・1年

学生に評価方法などのルールを事前に提示し、裁量的な評価方法はなるべく避ける。裁量的になってしまうと、学生が疑心暗鬼になり教員を信頼しなくなる。信頼できない教員からは学ぼうとする意欲が減ずる。

83. 男性・文系・1年

来学期からいわゆる「反転授業」を試してみたいと思います。 <http://bit.ly/2ia7HUt>

84. 男性・文系・4年

パワポと板書のバランス

85. 男性・文系・7年

ゼミ生や他学部生だからといって無意識に点数が甘く（厳しく）なるのを防ぐため、採点の際には氏名などが見えなくなるように答案用紙を綴じています。予断を持たずに採点できるため、性に合っているようです。

86. 男性・文系・9年

科目を担当する以上はわかりやすい授業として、伝え方、ツールを工夫している。学生が集中しやすい環境づくりをいかに維持し、工夫しながら行っている。履修者数にもよるが、私語や遅刻、早退に関することはシラバスに明記し、授業でも何回か口頭で伝達している。

できるだけ、頭と手を使って考えさせる授業を意図的に行っている。ワークやグループディスカッションを数回行うこと、場合によっては席替えをとして、指定席に座るようにしている。

パワーポイント、レジュメについては穴埋めにして、手で書かせるようにしている。講義とワークを交えて、意見交換をできるだけ行って、そこから掬い上げるようにして反映している。

87. 男性・文系・16年

パワーポイントを使う授業では、板書のときよりも内容が多くなる傾向があり、学生の方でも消化不良になっているのではないかと感じるがあった。そのため、同じ内容を別の言い方で説明しなおしたり、少し冗長なくらいに説明して内容を減らすように（板書のときと同じくらいになるように）している。

88. 男性・文系・20年

入学時に学生が持っていた興味を失わずに、それを高め、当該分野を勉強してよかったと思って卒業してもらいたい。当たり前のことですけど。

89. 男性・文系・23年

一方的に講義するのではなく、学生に質問して答えさせるような対話型の授業をするよ

うに心がけてきた。

90. 男性・文系・35年

学生による授業評価が始まった頃、学生の日を見るのを避けていると指摘され、今はときどき学生の眼を見て話すようにしている。高校等では板書が教員によってきれいになされているのか、多く板書はするが整理されていないと指摘された。よってできるだけきれいに、整然と板書するように努めている。最近の学生は評価方法に敏感になっているように感じる。90点以上のSの評価ができたかもしれない。評価方法はできるだけ明確にするようにしている。

 **グループⅥ：男性・その他**

91. 男性・その他・2年

定期的に学内で「分かりやすい講義」の実施について勉強会を実施しており参加している。自分の講義に対する助言だけでなく、他の教員の講義に対する工夫等知ることが出来、良い学びの場となっている。